敬覚寺寺報

9月号

月刊◉敬覚寺報

▼二〇〇二年九月一日▲

〒177-0032 東京都練馬区谷原6-8-12
TEL 03(3996)1833　大江義宏

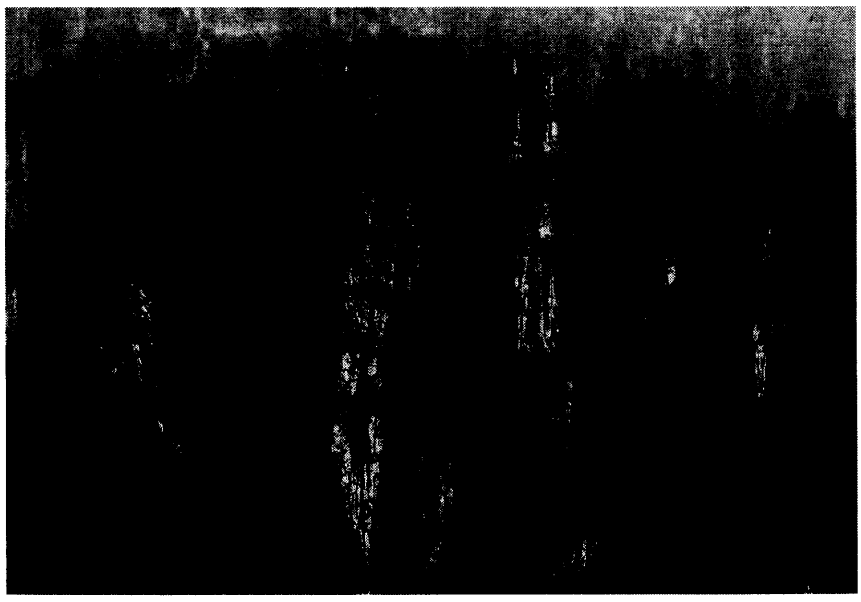
中華人民共和国
●武陵源

中国、湖南省の武陵山地の北側に広がる広大な山岳地帯で、「自然に覆い隠されていた」「武陵源」が発見されたのは、おどろく程最近の一九八四年（昭和五十九年）のことです。高さ数百メートルの珪岩の柱が三千本以上も林立した奇岩の森は山水画の世界そのもの、絶景の地です。

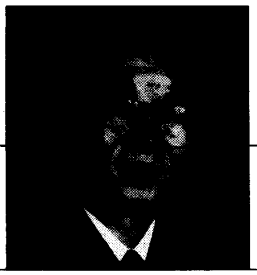
珪岩の高さは、大部分が百メートルを超え、二百メートルを超えるものもあり、近年は四百メートルに近いものさえ発見されています。

この地域一帯は極度に人口密度が低く、土地はやせていて、農耕には不向きの為、それは又逆に自然をそのままに守らせていたのです。ここに生息する動物の種は豊富で、高低のある土地の為、住み分けがうまく行われています。現在百十六種の脊椎動物が生息しています。又、クモ、クワガタ、カメムシ等の昆虫数も多く観察されています。観光地として開発され、自然保護の問題が生じている今、世界遺産に登録された意義は大きいと言えましょう。一九九二年登録。

うけつがれるもの　うけついでいく心
―― 世界遺産 ――



ハワイ開教・その感動



ハワイ開教区アイエア本願寺住職
川路　広美

みのりの秋九月です。九月には秋季彼岸会法要が勤修されます。私は日本の春秋二回の彼岸会法要を、大変すばらしい行事と讃え感謝しています。はっきりした四季の変化のある日本では、この彼岸会の季節は、仕事にも運動にも、そしてまた遊びにもとても気候条件の良い住みやすい季節です。その最も恵まれた時期に、昼夜の時間の等しい日を中日として、前後の三日間を加えた七日間を彼岸会と称し聞法のお寺参りをされた念仏者の姿勢を、私は心から尊敬し感謝しています。

浄土真宗では聞法がとても大切とされていますが、お彼岸の法座は、仏法を大事にされ、聞法第一として精進された方々の尊い手本と云えます。私は、そのような有難い伝統の法座が、四季の変化の極めて乏しいハワイでも大事に伝承されて、一年二回、ハワイなりに意味づけされながら大事に勤修されています事を本当に嬉しく思っております。皆さん方も御存知と思いますが、ハワイの浄土真宗のお寺では、毎週日曜日にお寺で法座がありますので、六大法要と毎週日曜日のお寺参りとはあまり差がありません。同じ方々が同数位お参りされます。ハワイ別院では、以前は金曜日の夜から日曜日の満日中まで、厳かに報恩講、春季彼岸会、降誕会、盆会、秋季彼岸会、永代経の六大法要が勤修され、多くの参詣者がありました。特に日本語の法座は満堂でした。でも最近では、土曜日と日曜日の二日間になり、英語の法座三回、日本語の法座二回になりました。別院以外の地方教団の中には、英語法座一回だけのお寺もあります。毎日曜日の法座の名目が変わっただけという感じがする時もありますが、それぞれの寺院の要求に応えて立派に法座は保たれて有難い限りです。私が浄土真宗のみ教えに遇えて、凡愚の生身である事に気付かされて、素直にみ仏さまの前に合掌させていただける身にならせていただくまでに、どれ程多くの御勝縁に恵まれた事かと考えます時、表現できる言葉もなくただ合掌念仏あるのみです。

私共の宗祖親鸞聖人は、本典総序の終わりに「真宗の教・行・証を敬信して、ことに如来の恩徳深きことを知んぬ。ここをもって、聞くところを慶び、獲るところを嘆ずるなりと。」とお述べになっておられます。本典（教行信証）は、親鸞聖人が聞法の喜びの上から浄土真宗の教行証を讃嘆下さった極めて格調高い名著であります。私は今日、その教行信証を拝読させていただき、親鸞聖人の宗教的生命に直かにふれてお念仏の生活をさせていただける幸せを心から感謝せずにはおれません。

終戦後の生活苦の中で、なかなかお寺参りのできなかった母が、私の弟を背負い、私の手を引いて、『せめて彼岸の中日だけでも…』と遠い道を歩いてお寺参りをしてくれた幼い日が、なつかしく、有難く思い出されるハワイでの彼岸会の季節であります。柿の木の下に咲いていた彼岸花が目前に浮かびます。

仏説無量寿経（大経）〔その1〕
ぶっせつむりょうじゅきょう

住職◆先月の「浄土三部経」のお話を続けましょう。

経子◇「大経・観経・小経」ですね。

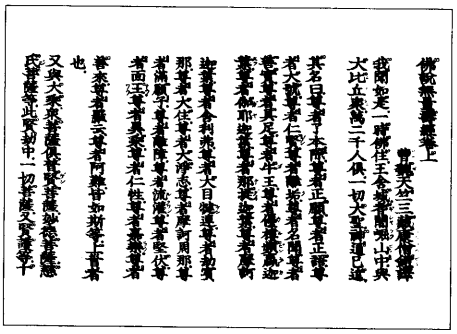
住職◆そう、まず「大経」から見ていきますよ。

経子◇「仏説無量寿経」でしたね。

住職◆親鸞聖人は、このお経を「大無量寿経」と呼ばれて、その著「教行信証」の中に**『それ真実の教を顕さば、大無量寿経これなり』**と尊ばれています。

経子◇このお経が真実の教えだというのですか。

住職◆お経は、お釈迦さまが説かれた仏説ですから、偽や仮ではありませんが、聖人ご自身にとっての真実の教えは「大無量寿経」でした。「大経」の最初の部分を見てみましょう。



経子◇「大経」は漢文ですね。

住職◆そう、大乗経典は梵語サンスクリットで書かれ、中国で漢訳されました。魏の時代に、天竺三蔵といわれた康僧鎧が漢文に訳したのです。経題の次に、訳者の名があるでしょう。

経子◇康僧鎧（こうそうがい）ですか。

住職◆梵語でサンガ・ヴァルサンという名で、中央アジアの康居国出身らしいね。

経子◇康居国ってどこでしょう。

住職◆サマルカンド付近だといいますよ。今はイスラム圏ですが、その当時は仏教が栄えていたのです。

経子◇そこの人が漢文に訳したのですね。こんなに長いお経をよく訳しましたね。

住職◆経典翻訳所の責任者としてサンスクリットやインド文化、仏教に精通した人たちの代表といえます。

経子◇では、「大経」のサンスクリット原本があるのですね。

住職◆そう、原本かどうか判りませんが、明治になってサンスクリット本が発見され、梵文と漢訳を比較対照した研究も出されています。

経子◇正しく訳されていますか。

住職◆翻訳は難しいものです。例えば「源氏物語」の現代語訳でいうと、谷崎潤一郎訳もあるし、瀬戸内寂聴訳もあるでしょう。

経子◇そうですね。宗教書はもっと難しいと思います。

住職◆「大経」には次の五種の漢訳が現存しています。親鸞聖人は「教行信証」で、それぞれ味わい、阿弥陀如来の本願を喜ばれました。

『仏説無量清浄平等覚経』
後漢　支婁迦織訳

『仏説大阿弥陀経』
呉　支謙訳

『仏説無量寿経』
魏　康僧鎧訳

『大宝積経無量寿如来会』
唐　菩提流支訳

『大乗無量荘厳経』
趙宋　法賢訳

経子◇この中から康僧鎧の訳を使うのですね。

住職◆内容としてはそれぞれ違った点もありますが、阿弥陀如来を讃えるお経として、仏前で称える「浄土三部経」の中に、この「仏説無量寿経」を用いているのです。

経子◇ありがとうございました。

蓮通信

■全戦没者追悼法要

・第二十二回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が、九月十八日（水）、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて営まれます。毎年同日に行われています。法要は午後一時三十分より、それに先だって「つどい」が午後〇時四十五分より、記念布教や宗門関係学校の生徒の作文の朗読などがあります。

「地下鉄・九段下」下車、徒歩約十分。

お問合せは電話〇三―五一四八―五〇〇二

首都圏宗務総合センターまで

■こころのふるさとをたずねて…

・東京親鸞会創立三十五周年を記念して、右のタイトルで、由紀さおり・安田祥子のコーラス、文学座による「稲田の里の親鸞さま」のお芝居、築地本願寺楽友会によるコーラスが開かれます。

日時　十月十九日（土）一時開場　二時開演

場所　よみうりホール（JR有楽町駅前）

参加費　前　売　三、〇〇〇円

　　当日券　三、五〇〇円

お申込は電話〇三―三五四三―八三九九

築地本願寺内　東京親鸞会まで

■勝如上人（前門さま）ご納骨法要

・七月三十一日、八月一日の両日、前門さまの七・七日法要が営まれ、大谷本廟にご納骨されました。

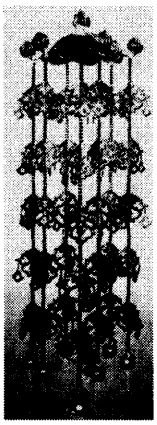
お仏具を考える

◆珱珞（ようらく）◆

九月二十三日（月）秋分の日を中心に前後の三日間と合わせて、お彼岸―秋季彼岸会―です。春と秋の二回、昼と夜の長さが同じになる時期は又、過ごしやすく、落ちついて物事を考えられる時期でもあります。

さて、お寺の御本堂の中央には阿弥陀様がご安置されています。阿弥陀如来は又、「光明無量」「照十方」「青色青光」「黄色黄光」「赤色赤光」「白色白光」につつまれている。つまり光に満ち満ちた世界とあらわされています。秋の彼岸会に近く西の空に沈んでいく大きな太陽の沈みぎわは金色に空が輝いてそのあたり一面が極楽の光の様に思えるのです。光がふりそそいでいく様を形にあらわしたお仏具―それが珱珞です。

金箔押のものとか、金物に金メッキをほどこしたものとかがあり、通常阿弥陀様の近く、お厨子の屋根先から吊るしてそなえます。



日常に使う仏教語

■普請（ふしん）・玄関（げんかん）・瓦（かわら）

『足場を組んで、ご普請ですか』

『いやね、先日の台風にやられた玄関の屋根瓦の補修ですよ』

普請―寺院を建立するためには、多くの人々から物心両面の協力を普く（あまね）請（こ）うことが必要になります。これが普請の語源です。

ここから次第に、城普請、橋普請、道普請などと使われて、一般にも建築工事全般を「**普請**」というようになりました。

玄関―大きな寺院の出入り口を尊く深い仏法に入る関所に見立て玄妙な関所（**玄関の間**）と名付けたのが始まりです。

建物の出入り口を玄関というのは仏教から来ているのです。

瓦―サンスクリット（梵語）で、粘土の焼き物をカパーラといいます。**屋根瓦**や敷き瓦は、仏教文化と共に大陸から伝わってきました。日本書紀に「百済から瓦博士が日本にきた」と記されています。素焼きの皿を「かわらけ」というのもカパーラが語源です。